

2026年4月3日

各位

サンヨーファイン株式会社
代表取締役社長 古川 喜朗

株式会社 Epsilon Molecular Engineering の株式取得について

サンヨーファイン株式会社（以下、当社）はこのたび、バイオ医薬分野の事業拡大を目的として、バイオベンチャー企業である株式会社 Epsilon Molecular Engineering（以下、EME 社）の一部株式を取得いたしましたのでお知らせいたします。

当社は現在、新規事業領域としてバイオ医薬品の開発製造受託事業（CDMO）に注力しており、とりわけVHH抗体の開発製造受託サービスを中核事業として強化しております。2023年4月より、VHH抗体に関する高度な技術を保有する琉球大学発ベンチャー企業 RePHAGEN 株式会社（以下、R社）との共同開発を開始し、VHH抗体の受託案件やカタログ品について多くのお問い合わせをいただいております。また両社の独自技術の強化についても継続して推進しております【[VHH抗体受託サービス・カタログ品資料](#)】。

今回、当社の事業成長をさらに加速するため、VHH抗体及び創薬分野に深い実績を持つEME社の株式取得に至ったものです。EME社は2016年の創業以来、独自の高速スクリーニング技術“The Month”を活用し、VHH抗体を基盤とした創薬事業を展開してきました。これまで多くの製薬会社との共同研究・開発を実施しており、近年ではscFvや有用タンパク関連分野など、モダリティの拡大にも積極的に取り組んでいます。

EME社およびR社がこれまで培ってきたVHH抗体に関する知識や技術の各々の特長を生かしつつ、当社が推進する微生物培養をコア技術としたVHH抗体製造体制の強化と組み合わせることで、より幅広い顧客ニーズにお応えできるサービス体制を構築してまいります。

なお当社では、すでに2025年7月にラボGMP設備（10L培養槽スケール）が稼働しており、さらに2026年度中には、小規模GMP設備（50L培養槽スケール）の稼働を予定しています。これらの設備ではVHH抗体のみならず、さまざまなモダリティに対応できるよう、培養槽に加え、培養後の集菌・除菌装置、菌体破碎装置、精製用クロマト装置等を備えており、微生物を用いたタンパク質等の一連の製造プロセスに対応可能な体制を整えております。さらに将来的な商業生産を見据え、数千L規模の培養槽を備えたバイオGMP設備の拡張も計画しています。

これらの取り組みを通じ、当社はバイオ医薬事業の領域拡大と顧客基盤の強化を一層推進してまいります。VHH抗体を中心としたバイオ医薬の開発製造基盤を拡充することで、多様なニーズに応えるCDMOとして、今後も成長を続けてまいります。

※株式会社 Epsilon Molecular Engineering：

VHH抗体を基盤とした新世代バイオ医薬品創出技術を提供する埼玉大学発のバイオテクノロジーベンチャー。10¹³~10¹⁴個の多様なライブラリーを活用した高速スクリーニング技術が特長。

※VHH抗体：

ラクダ科動物に特有の抗体であり、従来の抗体医薬で使用されてきた抗体とは異なる低分子抗体。微生物による生産が可能であるほか、温度やpH変化に対して高い安定性を持つなど、創

薬や診断薬開発における次世代抗体として近年注目されている。

※RePHAGEN 株式会社：

琉球大学発のバイオテクノロジーベンチャー。独自の VHH 抗体ライブラリーを利用した卓越したスクリーニングシステムを有する国内有数の VHH 抗体研究開発企業。

※サンヨーファイン株式会社：

大阪ソーダグループの子会社。医薬品原薬・中間体 CDMO 企業として製薬企業を主な顧客に持ち、有機合成とバイオ技術を基盤技術として各種開発製造受託サービスを提供。

以上